

## 2022 年度社会調査実習に向けた提案

# 食でつながる子ども食堂・フードパントリー —活動の道具の肝である食材の入手方法に注目する—

北村 初音

### 調査テーマ

#### 食材の入手方法を明らかにすること

私は、今年度参加したボランティア活動から、それぞれの子ども食堂がどのように食材を調達しているかを入手しているかどうかをテーマに、来年調査を行ってみたいと思った。

子ども食堂は、「低額で、皆で食事をとれる場」として、注目され、子どもの居場所としての役割を果たしてきた。いわば、食を通して、つながることができたコミュニティである。そのため、当然、活動の継続には、食材をどのように調達できるかが大きく関わってくる。

さらに、コロナ禍になり、食料配布の需要が高まり広まったフードパントリーでは、子ども食堂を開催する以上に、多くの食材が必要となる。

しかし、食材の調達方法は、それぞれの子ども食堂やフードパントリーによって異なり、寄付でいただける量も、かなり差があることがわかった。ほんわか食堂では、松土さんの働きにより、バローや敷島製パン、カネハツなど、多くの企業からたくさんの寄付を頂くことができていた。一方、わいわい食堂では、毎回活動に参加している東園さん曰く、だんだん寄付品が少なくなり、配布食材も減っているらしい。また、私が訪れた場所では、地元の方から、メロンやミカン、カボチャなどの農産物の寄付はあるものの、企業からの寄付は、地元企業1社からのみであった。

そこで、改めて、それぞれの子ども食堂の食材の調達方法を整理してみるのはいかがでしょうか考えた。いわば、子ども食堂・寄付ネットワークを明らかにするのである。そうすることで、子ども食堂やフードパントリーの継続的な活動に役立つ情報を提供できるのではないかと。食材調達方法の地域差や寄付の差に真正面から向き合うことで、食材調達に必要な要素などを見出すことをしてみたい。そして、それが子どもの居場所づくりの維持につながってほしい。

### 調査方法

#### ①インタビュー調査

##### 質問内容

子ども食堂・フードパントリー主催者：食材の入手方法

子ども食堂やフードパントリーに寄付をしている企業：

寄付の経緯、フードロスの実態、フードロスを削減するためであったらいいと思う機能

食材の調達方法を明らかにするには、今年の3年生が行っていたように、zoom や対面でも子ども食堂やフードパントリーの主催者にインタビューするのが、一番具体的にわかるため、よいと思う。

食材に注目するため、現在、子ども食堂に多く寄付をくださっている Pasco やバロー、カネハツなどの企業にも、インタビューしてみるのはいかがでしょうか。寄付をいただく側の視点だけでなく、寄付する側の視点から、子ども食堂の食材についてお話を伺うことができれば、新たな発見があるかもしれない。また、企業側に直接インタビューをすることで、フードロスの実態やフードロス改善のために、あったらいいなと思う機能がきき出せるかもしれない。また、寄付のきっかけを企業からきくことで、より多くの寄付を得るために子ども食堂ができる活動も見えてくるだろう。

以上の理由から、この調査にはインタビュー調査が適切であると思う。

## ②実地調査

当日会場にある食材の量、配布される量に注目

インタビュー調査だけでなく、実地調査も必要だと思う。なぜならば、現地において、現場をみなければ、実際どのくらいの量の食材がとどき、どのくらいの分量で配布されているのか（あるいは、1食分つくられているのか）がわからないと思うからだ。

さらに、継続的に現場に通うことで、食料が多く寄付される時期とそうでない時期が見えてくるだろう。

以上のことから、現場に行くことで、1回1回、撮れる範囲で、配布したり、配膳したりした食を、写真で記録として残すべきだと思う。

## まとめ

子ども食堂の数は、コロナ禍でも増えている。コロナ禍で生活が苦しくなったり、人とのつながりが希薄になったりしたからこそ、今、子ども食堂という居場所が求められているのだろう。

子ども食堂の数が増えたということは、増えた分だけ、子ども食堂で必要な食材の量も増えるということだ。

コロナ禍で経営が厳しいところもある中で、子ども食堂の数が急増している今だからこそ、食材入手のネットワークとネットワークのつながり方を明らかにしたい。そして、寄付によって、食材が手に入ることで、より満足度の高い、また来たいと思える子ども食堂づくりにつながればと思う。